

1 単元名 現代の民主政治と社会

2 単元の目標

- 国や地方公共団体の政治に対する関心を高め、民主政治をよりよく運営していくためにはどのような仕組みが必要か、また自分たちはどう関わっていけばよいかを考えようとする。
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- 国や地方公共団体の政治、裁判に関する作業的・体験的な学習を通して考え、その過程や結果を適切に表現することができる。
(社会的な思考・判断・表現)
- 国や地方公共団体の政治に関する新聞記事や法令、判例などの資料を様々な方法で収集・選択し、政治や社会の現状や課題などについて読み取ったり文章や図表などにまとめたりすることができる。
(資料活用の技能)
- 国や地方公共団体の政治の仕組み、政党の役割や公正な裁判の保障などの学習を通して、国民の政治参加の重要性を理解することができる。
(社会的事象についての知識・理解)

3 単元について

(1) 生徒の実態 (男*人, 女*人 計*人)

生徒の実態調査の結果については非公開とする。

(2) 指導観

本単元は、中学校学習指導要領第2章第2節社会科公民的分野の内容(3)ーイ「民主政治と政治参加」に関わる学習内容である。中学校学習指導要領解説社会編にあるように、本単元は、国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解させるとともに、民主政治の推進と公正な世論の形成や国民の政治参加との関連について考えさせることをねらいとしている。また、「法に基づく公正な裁判の保障」に関連させて裁判員制度に触れることも明記されている。国民が刑事裁判に参加することによって、裁判の内容に国民の視点、感覚が反映されることになり、司法に対する国民の理解が深まり、その信頼が高まることを期待して裁判員制度は導入されていることに気付かせる必要がある。

生徒の実態については非公開とする。

以上のことを踏まえ、本単元においては、現代社会をとらえる見方や考え方の基礎を養い個人の考えを全体で共有化していくための言語活動を取り入れていく。その際、個人の考えをもたせる場面、個の考えを全体へと共有させる言語活動の場面において、さらにきめ細やかな支援を行うティームティーチング形式の指導を取り入れる。まずは生徒に自分の考えをしっかりとたせ、小グループ、全体へと話し合う範囲を広げていく。その過程では他の生徒の考えに着目させるようにし、自分の考えとの共通点や相違点に焦点を当てさせるようにする。また、授業の終末で行う自己評価の項目に仲間の考えに焦点を当てた項目を設定し、仲間の考えのよさを見つけようとする意識を高め、個の考えを全体で共有していく手立てとする。こうして個の考えを全体で共有化していく活動に重点を置くことで、個々の生徒の現代社会に対する見方や考え方を再構築させ、高めていきたい。

4 指導, 評価計画(10時間扱い)

時	主な学習活動	観点	評価規準
1	国権の最高機関、唯一の立法機関としての国会についてその意義を含めて理解する。	思	・日本が二院制を採用していることの意義と課題について多面的、多角的に考察し、自分の考えを表現している。
2	具体的な法律の制定過程の事例を通して、立法が国会の働きの中心であることを理解する。	技	・法律の制定や予算の審議・議決、内閣総理大臣の指名の流れについて図表などにまとめている。
3	内閣総理大臣の仕事を通して内閣の仕事と役割について理解する。	知	・内閣の仕事や、議院内閣制の意義と仕組みについて理解している。
4	社会の変化とともに行政権の役割が拡大したことについて、具体的な事例を通して理解する。	技	・新聞記事やテレビのニュースを基に、現在の行政の抱える課題や行政改革の取組みについての的確に読み取っている。
5	具体的な事例を通して、法や裁判所が社会生活において重要な役割を果たしていることに気付く。	思	・法や公正な裁判の保障が、権利を守り、社会の秩序を維持する意義を持つことを、身近な事例を通して多面的・多角的に考察している。
6	裁判における人権保障の実情や裁判をめぐる諸課題と解決への動きについて調べ、公正な立場で考える。	思	・裁判をめぐる諸課題について、多様な資料を基に多面的・多角的に考え、その過程や結果を適切に表現している。

7	国民の司法参加の意義や裁判員制度のあらましを理解する。	知	・司法制度改革と裁判員制度のあらましについて理解し、国民の政治参加の意義に気付いている。
8	模擬裁判でのロールプレイングを通して、それぞれの立場から裁判員制度の仕組みを理解する。	知	・模擬裁判を通して、裁判員制度の仕組みについて理解している。
9 本時	裁判員制度の模擬裁判における評議を通して、裁判員制度が導入されたことの意義に気付く。	思	・模擬裁判の裁判員として評決を出す活動から、裁判員制度の利点について考察し、論述している。
10	三権相互の関係について理解すると共に、三権分立の重要性に気付く。	知	・三権分立の仕組みと三権相互の関係を具体的に理解している。

5 本時の学習

(1) 目標

裁判員制度の模擬裁判の評議を通して、裁判員制度の利点について考察し、論述することができる。

(2) 準備・資料

- ①「前時の模擬裁判と事件の概要」掲示用資料、②判例資料、③ワークシート、④「評議の進め方」掲示用資料、⑤発表用シート、⑥自己評価カード

時間	学習活動・内容	指導上の留意点 ◎ 評価（方法）
0	1 前時の模擬裁判や事件の概要を振り返り、関連する刑法について確認する。	・T2は前時の模擬裁判や事件の概要をまとめた資料を掲示し、前時の振り返りが視覚的に捉えられるようにする。
5	2 本時の学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">裁判員制度はどうして取り入れられたのだろう。</div>	・本時は裁判員として、評議をしながら前時の模擬裁判の最終的な評決をしていくことを通して、裁判制度が導入された理由について気付かせる。 ・評決についてはまず個人で考え、次にグループに分かれて評議を行い、最終的には全体で考えていくことを確認する。
10	3 評決について考える。 (1) 個人で考える。 (2) グループを作り、評議しながらグループとしての最終的な評決を考える。 ・有罪か無罪かを決定する。 ・有罪の場合、量刑はどうか決定する。	・判例資料を配布していくつか判例を紹介し、個人で評決を考える際の参考にさせる。 ・T2はワークシートを配布する。 ・T2と共に机間指導をし、有罪か無罪か、懲役の年月、執行猶予付きか否か、そう判断した理由等をワークシートに記述するよう支援する。 ・評議の進め方についてはT2が資料を提示して、全体で流れを確認する。 ・T2と共に机間指導をし、評議のポイントを助言しながら、評決までまとめられるようにする。
35	4 各グループの達した結論について全体で話し合う。 ・発表用シートを用いながら順に発表する。 ・各グループの発表について質疑応答、意見交換を行い、よりよい最終的な評決を考える。	・黒板に各グループの最終的な評決をまとめた発表用シートを貼り、その評決に至った過程に触れながら順番に発表させていく。 ・全グループの発表後、各グループへの質問や確認、共通点や相違点について話し合わせ、よりよい最終的な評決を全員で考えさせる。
45	5 裁判員制度の利点は何かを考える。 ・裁判の判決に国民の視点や感覚が反映されるようになった。 ・国民が司法に関心をもつようになった。	・国民の司法参加にはどんな利点があるのか、ワークシートに自分の考えをまとめさせる。 ◎模擬裁判の裁判員として評決を出す活動から、裁判員制度の利点について考察し、司法への関心、判決への国民の感覚の反映等について論述している。 (ワークシート、観察、発言)
48	6 本時の学習内容を振り返る。	・自己評価カードを用い、自分の考えだけでなく他者の考えの良かった所も記述させることで、他者の考えのよさに気付かせ自分の考えの再構築を図る。